

議会運営委員会視察報告書

宮崎広子

令和6年1月11日（木）鹿児島県始良市

令和6年1月12日（金）宮崎県都城市・鹿児島県霧島市

目的：議会改革について

始良市

1. 市と市議会の概要

薩摩半島と大隅半島の集束点、鹿児島本土のほぼ中央に位置し、東西に国道10号、JR日豊本線が通り、九州自動車道と東九州自動車道が合流する加治木ジャンクションや始良インターチェンジがあり、さらに令和3年に桜島スマートインターチェンジが全面開通するなど、交通の要所として発達している。近年は子育て世帯の注目を集め、鹿児島県内で唯一人口増加の市となっている。

人口 77,954人

面積 231.25 km²

議会構成

定数24人（女性議員4名） 会派性（5会派）平均年齢60歳 5常任委員会 特別委員会（2委員会）

議会広報

議会だより（年4回）議会中継（定例会）

議会基本条例 平成24年4月1日施行

議員報酬 303,000円

政務活動費 月3万円

事務局 職員数6名 会計年度職員2名

2. 所感

始良市議会の基本条例の見直しは、推進会議を開き任期中一度は行っている。基本条例アンケートをもとに3年目に1年かけて課題を出し、決着をつけていく。これは、現在の粕屋町に似ていると思うが推進委員会が行っているのので、議会運営委員会で進めていないところが組織的に違う。

議会報告会は、地域の要望に応え団体と対面式の報告会を行ったり、3常任委員会でテーマを決め市民を集めて意見を聞く座談会方式をとっている。

議会政治倫理条例でハラスメント研修を行い、細かい言動の注意を行っている。女性の服装は良識ある服装を心がけているということで、女性議員同士でよく話し合っている。

3. 粕屋町の状況

粕屋町では、基本条例を施行して初めて昨年見直しを行った。今年度は、見直しを受けて改正すべき箇所のたたき台を作り全員協議会で議論し、改正を行う。さらに町民に対し説明会を行う。

改正すべき点の一つに議会報告会がある。コロナ禍の中議会報告会を中止していたが、令和3年より団体との議会報告会を行った。文教厚生常任委員会はシニアクラブと総務建設委員会は、商工会と行った。さらに令和4年は文教厚生常任委員会は民生委員会と、総務建設常任委員会は消防団と議会報告会を行った。しかし、議会が報告する内容が、執行部の決算報告なので広聴する時間が30分ほどしかなく、時間が少ないという反省点が出ている。この度、改正点の議会報告会をやめて意見交換会としたい理由は、

町民の意見を十分に聞き取ることができないということと、執行部が作成した決算報告を議会がするのはいかなものかという考えからである。

議会のハラスメント研修は県単位で行われた。女性の立場からであるが、人の名前を〇〇議員という呼び方はされていない。時々、名前を呼ばれず「あんだ。」といわれるが、名前を覚えられないのだろうとあきらめている。また、パワーハラスメントも最初はあったが、研修後はなくなった。服装については、背広とネクタイという男性中心の規定なので、女性議員としては儀式的行事に着ていく服を選んで登庁している。

委員会の情報公開は、記録を取りホームページにあげているが、委員会報告を作成するのに丸二日はかかるので時間ももったいないし、町民が知るにはタイムラグがある。

4.町への活かし方、対策や課題

①現在基本条例の改正を進めている。現在は議運が進めているが、次回は議運で進めていくのか、特別委員会を作るのかを明確にしておいた方がいい。

②議会広聴活動について

現在は、広報委員会は各常任委員会の下請け的委員会の感が否めない。議会報告会を意見交換会に変えたら、もっと積極的に町民の意見を聞く施策を打って出なければならない。

各委員会報告が負担になっているので、いち早く中継できるようにしていかなければならない。

③服装については、もっとスーツでないものを選択できたらいいと考える。

都城市

1.市と市議会の概要

平成 18 年に 1 市 4 町の合併により都城市となる。宮崎県の南西部に広がる盆地に位置し、霧島連山、鰐塚山など三方を山に囲まれ、地下水や湧き水に恵まれている。九州縦貫自動車道など国道が 5 本通り、JR も 2 本走り空港や湾にも近く交通アクセスのバランスがよい。特産品もあり、ふるさと納税は日本一である。

人口 160,640 人

面積 653.36km²

議会構成

定数 29 人（現員 26 人）（女性 7 人）会派 8 平均年齢 62.05 歳 5 常任委員会 2 特別委員会

議会広報 年 4 回発行 本会議中継 委員会中継は中継や録画配信

議会基本条例 平成 25 年 6 月 21 日施行

議員報酬 400,000 円

政務活動費 月 3 万円

事務局 10 名

2.所感

議会基本条例の見直し作業は、議運の任期 2 年目に実施。これまで 4 回行っている。粕屋町よりも多く見直し作業を行ってきている。

市民に開かれた議会にするため、傍聴規則を改正している。また、本会議、委員会、全協などの会議の公開を行い、傍聴手続きを不要にしている。評決をタブレット上で行い結果もタブレット上に載せて

いる。将来、タブレットを使った中継の簡素化などが実現できるのか、何のために行っているかが不明だった。

政策提言に向けガイドラインを作成し、実現に向け具体的に進めている。外部講師の助言や示唆もあり政策を策定するまでの研修スケジュールも具体的に決められておりとても参考になる。

議会報告会や意見交換会を実施しており意見交換会を増やし全体方式や座談会方式で行っている。

議会広報誌の他に、市議会のインスタグラムやフェイスブックを開設している。広く市民に伝わりやすい方法を使っている。

3. 粕屋町の状況

粕屋町の傍聴は、手続きが必要で、入りづらく現在傍聴者は少ない。この3年間、政策提言をしたことがなく、議員力が不十分で、どのようにしたらいいのかがわからないのが現状である。議会広報常任委員会は、紙媒体の広報誌と YouTube 配信を行っているが、YouTube 配信は委員長しかできず、仕事が一人に集中している。

4. 町への活かし方、課題や対策

- ①傍聴に関しては、議会基本条例改正し手続きを廃止する。また、傍聴する人が少ないので、事前に通告書や委員会の内容のお知らせなど詳しい案内が必要である。
- ②YouTube 配信ができる方法を探る。業者に任せるか、研修を受け配信できる議員を増やす。
- ③町民との意見交換会は、これまでの団体からの要望に応える方法と委員会がテーマを決めて募集する座談会方式など形を模索する必要がある。
- ④議員の仕事である政策立案や提言、その方法の整理と自分で作ってみてみんなで研修する方法など探る。

霧島市

1. 市と市議会

霧島市は平成 17 年に 1 市 6 町が合併して市が誕生した。鹿児島県のほぼ中央に位置し、霧島連山を背景に豊かな平野と桜島を望む錦江湾が眼下に広がっている。陸・空・海の交通が整った交通の要所で地域特性を生かした農産物や特産物が豊富である。

人口 124,112 人

面積 603.17km²

議会構成

定数 26 人（現員 25 人、女性 3 人）会派 6 平均年齢 57.92 歳 5 常任委員会 1 特別委員会

※改選のたびに、新人議員が多数当選する。今回は 9 名が新人議員。

議会広報 年 4 回発行 本会議中継 委員会中継は中継や録画配信

議会基本条例 平成 21 年 10 月 28 日制定

議員報酬 402,000 円

政務活動費 月 3 万円

事務局 8 名

2. 所感

議会広報常任委員会として、議会の中心的役割を担っていることがわかり責任の重大さがわかった。特に、各常任委員会のテーマを広聴活動する6か月前に決めてもらい、「議員と語ろう会」を組織している。各委員会も、何をテーマに調査研究しているのかがぶれずに進められる。市民から聞き取りをして、それを委員会審査の資料にし一般質問や政策提言などにつなげていくのは、とても理にかなっていると思った。

また、私が現在一番困っていることは、委員会報告である。毎回委員会の内容をホームページに掲載するために、後日何度も録音を聞き直して記録しているのだが、非常にわかりにくい。霧島市では委員会の会議内容も中継配信する準備を行っている。中継にすると議員の発言等困らないかという質問にも、中継配信されるのだから逆に自分の発言内容に気を付けるのではないかという答えに、その通りと思った。

3. 粕屋町の現状

女性議員が少ない。実際、持ち帰りの仕事が多く、研修などしていると他の仕事はできない。

(例えば、家族の世話、子育てや介護など)

粕屋町では情報開示と言いながら、委員会の中継ができていない。

広報常任委員会の広聴活動は、団体を探して活動したり団体の要望を受けて活動したりしているが、それぞれの委員会の活動とのつながりが薄い。

4. 町への活かし方、課題や対策

- ①一番課題と思ったのは、議会広報常任委員会の広聴活動の改革である。やらなければならない事はたくさんあるが、何よりも各委員会のテーマと連動して広聴活動を行いスケジュールを組むことである。さらに、町民の要望に応えるため、だれでも語ろう会(出前議会)を組織しなければならない。

広報誌も毎回広聴を呼びかける内容を紙面に載せていく事を考え、町民に呼びかけていく事が大切だと思った。